様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２９ 年　 ６ 月 １４ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2014～2016
課題番号：２６４６３３３５

研究課題名（和文）外来がん治療におけるオーラルマネジメントに基づいた看護実践モデルの開発

研究課題名（英文）Development of a nursing practice model for outpatient oral cancer treatment based on oral management

研究代表者
鷲見　尚己（Sumi, Naomi）

北海道大学・保健科学研究院・准教授

研究者番号：３０３７２２５４

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,800,000円

研究成果の概要（和文）：外来でがん化学療法を受ける患者に対する口腔管理に焦点をあてた看護支援では、病棟看護師、外来化学療法部門の看護師、歯科外来看護師は、患者の身体状態とともに口腔管理に関連する介入ポイントが看護師の所属部門により異なるため、看護者間および歯科医師・歯科衛生士の患者に関する積極的な情報共有が重要であった。口腔関連の有害事象にとどまらず、治療中の患者のQOL向上のためは、栄養評価を含む全身状態の評価とともに食べられる口腔環境の保持、義歯作成や調整をがん治療の経過を予測して早期に介入すること、がん治療と口腔管理の方策について看護職と歯科医師と情報を共有し歯科処置の内容を検討することが重要である。

研究成果の概要（英文）：It is important for a patient support model that is focused on the oral management of patients receiving outpatient cancer chemotherapy to ensure that nurses, dentists, and dental hygienists actively share information. This is because ward nurses each work in different departments to help in the management of physical conditions and oral health care of patients. In order to improve patients' quality of life during therapy, in addition to managing adverse oral events, it is important to: evaluate systemic conditions, including nutritional status; maintain an oral environment that allows patients to continue eating foods; carry out interventional measures for the preparation and adjustment of dental prostheses, in accordance with the anticipated progress of the cancer treatment course; and share information about cancer treatment strategies and oral management policies among nurses and dentists in order to allow investigation of the specific type of dental treatment to be performed.

研究分野：がん看護

キーワード：外来　がん化学療法　口腔管理　看護師　多職種連携

１．研究開始当初の背景

平成 24 年度診療報酬改定では、がん治療開始前から治療後にわたり、口腔環境の整備を包括的に実施することを重視し、周術期口腔機能管理が新設され、がん対策基本法でも医科歯科連携により「がん患者の口腔を守る」ことが明文化されている。口腔管理においては、近年、オーラルマネジメントという考え方が提唱され、歯性感染症の急性化を予防するための歯科治療および口腔衛生にとどまらず、異常の早期発見、アセスメント、口腔衛生、セルフケア教育、栄養、リハビリテーション、多職種連携など広い概念を包括したものであり、計画的ながん患者支援に有効な考え方である。しかしながら、がん診療連携拠点病院においても、看護師の口腔ケアやオーラルマネジメントにおけるケア実践が十分実施されているとは言い難い。よって、がん患者への口腔管理の観点から、患者の生活全体を支援する看護師の役割に着目し、がん治療における支援モデルとして外来での看護実践の方策を構築することの学術的意義は大きい。

２．研究の目的

本研究の目的は、外来治療を受けるがん患者への看護師の口腔管理対策についてオーラルマネジメントの観点から開発することである。主としてがん化学療法について、外来および病棟における看護師による療養生活支援、口腔アセスメント、セルフケア介入、他職種連携のあり方について構造化し、支援モデルを検討することである。

３．研究の方法

本研究では、がん治療を薬物療法に焦点を絞り、以下の内容を実施した。①がん患者の口腔管理に関する実態調査、②がん患者を支援する看護師の口腔管理に関する実態調査（質的・量的調査）、③がん患者の療養生活を支援するためのケア介入の検討、とした。①の調査では、入院し治療開始する患者を対象にカルテ調査及び病棟でのインタビュー調査を実施した。②調査では、病棟看護師、歯科外来看護師、外来治療部門への看護師へのインタビュー調査と、全国主要 10 か所のがん診療連携拠点病院の病棟看護師（薬物療法を受ける患者を主として支援する部門に所属する看護師を対象）と外来化学療法部門に勤務する看護師を対象とした、無記名自記式配票調査を実施した。③調査では、がん化学療法を受ける患者の療養生活を支援するための方策の一つとして、がん患者の精神的回復力（レジリエンス）向上に向けた看護支援の探索を目的に、全国のがん診療連携拠点病院の看護師を対象とした配票調査により実施した。

なお、各調査を実施する際には、倫理的配慮として、北海道大学大学院保健科学研究院臨床研究審査委員会および対象施設の了承を事前に得るとともに、調査協力者への個人情報保護等は十分に考慮し実施した。

４．研究成果

１）<u>がん患者の口腔管理に関する実態調査</u>

ここでは、主として消化器がん患者が薬物療法を受ける患者の複数事例について口腔管理の観点で検討した。対象者は 50～70 歳代、男性 6 名、女性 1 名、疾患は胃がん、食道癌、十二指腸がん等で、薬物療法のレジメンは、SP、XP＋HER、Ned+5FU、FP＋RT であった。７例中、調査期間で口腔粘膜炎を発症したのは２事例（Grade1:１名、Grade２：１名）であり、他の５事例は口腔乾燥（柿木分類）１度から２度（２度は１名のみ）であった。保湿剤の使用は少なく、２事例のみであり、

他の事例では水、アズノール、市販の含嗽剤を使用して含嗽を行い、保清と保湿を実施していた。歯科では保湿剤を紹介されているが実際に使用している事例は、口腔乾燥２度の１事例のみであった。疼痛緩和のために鎮痛剤入りの含嗽剤を使用している事例は１名のみであった。また、治療前に抜歯をしたが、その後、従来使用している義歯が合わなくなり、装着時の疼痛があるために使用不可能になってしまい、経口により食事摂取が困難になっている事例が１名いた。その他、４名に慢性歯周炎が併発していた。

すべての事例で治療開始前に歯科受診を行っているが、歯科受診の目的を理解していないものも１名いた。患者の口腔ケアへの意識としては、「事前に看護師や歯科の先生から口内炎ができやすいからと説明されていた」「口内炎の予防のためにうがいをしている」「主治医からはうがいを癖になるほどするように言われている」「いつもと変わりなく当然のことだから（口腔の手入れ）をしている」「ここまで何故するのかよく分からない」などの意識のもと口腔管理のセルフケアを実施していた。口内保清の方法としては、ほとんどの事例が１日３回、歯ブラシや歯間ブラシを使用して清潔保持を行っていた。すべての患者は治療に対して前向きに取り組み、自分ありのセルフケアを実施していた。口内の清潔保持や保湿に関しては患者の意識も高いが義歯二関連するトラブルについては患者自身では対応の限界があること、義歯の調整には時間を要することから、できるだけ変化の出現など見越した歯科介入を必要とするものであると考えられた。治療に伴う口腔トラブルは入院時に生じるというよりも、退院後の自宅での療養中に生じるものであり、入院中の看護師をはじめとする医療者からの生活指導が重要になる。（調査協力者：丸山梨沙）

２）がん患者を支援する看護師の口腔管理の実態調査

質的調査により得られた結果について述べると、歯科外来の看護師ががん化学療法を受ける患者を直接的に支援する場面としては、治療開始前の口腔管理を歯科医師及び歯科衛生士ともに行う場面、さらには口腔関連のトラブルが発生している場面が主としてあげられる。前者の場合、

患者の治療前の口腔内の状況や問診から口腔衛生関する患者の生活習慣、治療時に必要となる口腔ケアのあり方についてアセスメントし、必要な指導やケアを歯科医師と歯科衛生士と役割分担をして実施している。特に、専門的口腔ケア（歯の治療、感染源となる可能性のある歯の抜歯、口腔内清掃）は歯科医師や歯科衛生士が実施しているが、原疾患の症状や病期に関連した身体症状の管理やサポート、口腔管理に関してもその人の生活習慣や生活背景、治療への受け止めを考慮した指導を実施していた。特に、歯科外来の看護師が意識をして患者へのケアをしている面としては【食べられる口腔内の環境づくり】【口腔内の状況に適した栄養管理】【これからの治療や経過を予測した歯科的処置のあり方】が挙げられた。口腔粘膜炎の状態にとどまらず、血液データを把握し、口腔内の清潔保持のための歯ブラシの選択、口腔ケアの方法、炎症が強い場合には軟菜食等の摂取を勧めるなど支援をしていた。これらの歯科外来の看護師の看護実践が明らかとなったが、同時に幾つかの課題も見出された。＜有害事象を考慮しながらの食べられる口腔環境づくりについて、個別性を持って行うこと＞＜歯科外来看護師

として、他部門看護師と歯科関連情報の共有の方策＞＜歯科医師と看護師間の患者の生活像の共有＞＜歯科外来時に看護師の介入を必要とする外来がん患者の特定をどのようにするか＞＜がん治療の今後の見込みについての医療者間での情報共有の方策検討＞などである。また、外来化学療法部門の看護師は看護実践としては、化学療法中には口腔トラブルの出現は少ないため、症状出現の多くは患者自身が対応していることになる。看護師は、来院時に前回の治療後のトラブルの有無などを確認し、どのように対処していたのか、困難がなかったのかを確認し、必要時に主治医を通じて歯科受診につなげたり、疼痛緩和の含嗽剤の処方を主治医に依頼したりしていた。外来治療部門の看護師は、口腔管理のみならず治療に伴う全身管理を実施しており、全身の評価の一環としての口腔管理を実施している。一方、歯科医師や歯科外来の看護師との連携という面においては、主治医を主としての連携にとどまっており、歯科受診結果の共有や看護師間連携の実施までは行われていなかった。

全国主要都市のがん診療連携拠点病院を対象として、看護師の口腔管理に関する横断調査を実施した。なお、看護師長以上の役職の看護職は対象者から除いて調査依頼をした。参加施設は 59 施設、病棟看護師は 141 名、外来治療部門は 255 名であった。84.1%がスタッフ看護師として勤務し、がん看護経験年数が比較的長く、10 年以上が 34.8%、ついで 5−10 年未満が 29.5%であった。がん看護専門看護師 6 名、がん看護関連の認定看護師の有資格者が 59 名含まれていた。今回、外来治療部門の看護師を対象としているため、調査対象者としては、比較的看護師経験の長い、キャリアのある看護師であった。

院内に口腔ケアチームを有するのは 50%であり、そのうち、チームに看護師が含まれているのは 33.8%であった。部署内で口腔ケアマニュアルの使用は口腔管理における支援の実施としては、病棟及び外来の双方ともに 50%以下であった。以降、外来での看護実践の実施について述べる。患者の口内の状態観察は 50%未満であるものの、有害事象の発症を予測したケアの実施は、71.3%であった。食事摂取量の把握とそのための検査データの把握については、75.3%、71.3%であり、病棟看護師の実施よりも若干低かった。義歯の調整、装着状態の確認に関しては、観察のタイミングが病棟よりも少ないためか実施率が 13−18%と低い結果であった。また、含嗽の実施に関しては口内保湿という目的のみならず、感染予防の意味も含めて 72.9%と病等の 48.9%に比べて高い実施率であった。一方、歯科連携に関する受診結果の把握は 63.6%と病棟よりも非常に実施率が高く、歯科連携の調整も 16.1%と低いながらも病棟に比較すると実施されていた。外来治療部門の看護師は、全身管理の観点からの口腔管理を実施していることが明確となった。

<u>３）がん化学療法を受ける患者を支援する方策の検討</u>

今回、がん化学療法を受ける患者の療養生活を支援するための方策の一つとして、がん患者の精神的回復力（レジリエンス）向上に向けた看護支援の探索に関する研究を実施した。第一段階の結果としては、がん看護専門看護師やがん看護関連の認定看護師を対象とした質的調査において、がん患者の精神的回復力を促進する看護援助として約 80 項目の看護師の援助内容が抽出された。全国のがん

診療連携拠点病院を対象とした全国調査において、看護援助内容の絞り込みを行うために因子分析を行い、最終的な援助項目が抽出された。これらの内容についての看護師の実践状況について調査した結果、外来治療部門の看護師は、特に、患者の日常性を維持していく支援や他の患者との関わりを踏まえた支援などをより実施しており病棟看護師と比較して支援内容に差が認められた。また精神的回復力を向上するための援助としては、緩和ケアチームやリエゾンチームなどの他の専門職や部門との連携が強く関連していることも明らかとなり、今後、外来でがん治療を受ける患者の精神的回復力にも着目した有効な看護支援への示唆となると考えられた。（調査協力者：島田詩絵奈）

５．主な論文発表等

[学術論文]該当なし

[学会発表]（計 7 件）

① 前田（丸山）　梨紗，鷲見　尚己：化学療法，放射線療法をうけるがん患者への「口腔ケアに関する文献レビュー，第 28 回日本がん看護学会学術集会，2014.2.8，新潟コンベンションセンター（新潟県新潟市）

② 丸山　梨紗，佐藤　三穂，山品　博子，中野　政子，成瀬　恭子，鷲見　尚己：がん患者に対するオーラルマネジメントの実態調査－北海道内がん診療連携拠点病院における施設調査より，第 29 回日本がん看護学会学術集会，2015.3.1，パシフィコ横浜（神奈川県横浜市）

③ 鷲見　尚己：Practice of oral care and related issues among nurses in cancer treatment: Approach for effective oral management．第 13 回日本臨床腫瘍学会学術集会，2015.7.18 ，ロイトン札幌（北海道札幌市）

④ 丸山　梨紗，佐藤　三穂，山品　博子，中野　政子，成瀬　恭子，鷲見　尚己：がん診療連携拠点病院における看護師の口腔ケアの実践状況とその関連要因の検討，第 12 回日本口腔ケア学会学術大会，2015.6.28，海峡メッセ下関（山口県下関市）

⑤ Kritika Poudel，鷲見　尚己：がん治療における口腔ケアおよび口腔マネジメントにおける看護実践と教育に関する国外文献レビュー，第 42 回日本看護研究学会学術集会，2016.8.20，つくば国際会議場（茨城県つくば市）

⑥ 鷲見　尚己，丸山　梨紗，船木　典子：がん化学療法をうける患者へのオーラルマネジメントの現状－歯科外来での看護実践についてー，第 31 回日本がん看護学会学術集会，2017.2.9，高知県立県民文化ホール（高知県高知市）

⑦ 丸山　梨紗，船木　典子，鷲見　尚己：がん化学療法を受ける消化器がん患者に対する看護師による口腔ケアの実践，第 31 回日本がん看護学会学術集会，2017.2.4，高知県立県民文化ホール（高知県高知市）

６．研究組織

（１）　研究代表者

鷲見　尚己（SUMI　Naomi）

北海道大学・大学院保健科学研
究院・准教授
研究者番号：３０３７２２５４
（２）　研究分担者
佐藤　三穂（SATO　Miho）
北海道大学・大学院保健科学研
究院・講師
研究者番号：００４３１３１２